

## 持続血糖測定に関するタスク・シフトとしての取り組みについて

◎樹 昇吾、坪内 哲<sup>1)</sup>、花田 純子<sup>1)</sup>、岡山 翼<sup>1)</sup>、山下 美香<sup>1)</sup>、米田 登志男<sup>1)</sup>  
広島赤十字・原爆病院<sup>1)</sup>

### 【はじめに】

糖尿病患者は生活習慣や環境変化により年々増加傾向にある。糖尿病患者の良好な血糖コントロールを行うために近年、持続血糖測定が実施され、そのモニタリング指標のツールとして FreeStyle リブレ、リブレ Pro が多く使用されている。このリブレの運用について広島県内の拠点病院へのアンケートを行ったところ、データの抽出などを診察室で医師およびクラークが行っている施設が多く、医師の業務増加と患者の待ち時間延長に繋がっていると考ええる。当院では医師の業務軽減およびスムーズな診察に貢献できるようデータ抽出、電子カルテへの取込みを検査部で実施しておりその運用について報告する。

### 【当院の運用】

当院では採血を診察前に実施するため、検査部で採血室の運用をしている。採血室と検査室は隣接しており、リブレ装着患者は採血受付をすると「リブレ」と表記されたラベルが採血管と共に発行される。採血者は採血後、患者よりリブレリーダーを預かり検査室にてデータの抽出及びカ

ルテへの貼付けを行う。貼付けが終了したのち患者へリブレリーダーを返却している。昨年、クラウド上で患者データを取得できるリブレ View というシステムを取り入れた。このリブレ View では、診察前日に PDF 化したデータを事前に取り込んでおけるため患者と採血後にリーダーのやり取りをすることなく、より短時間で簡便にカルテへのデータ貼付けが実施できている。

### 【考察・まとめ】

多くの病院が、診察室で抽出したデータを紙媒体で印刷し、カルテに取り込む運用としており、医師やクラークの負担が増えている。当院では、検査部が採血時にデータの抽出、電子カルテへの取込みを行うことで、スムーズな診察へと繋がっていると考ええる。またリブレ View を取り入れたことで患者の採血室での待ち時間短縮となっている。今後は持続血糖測定における装着などに関しても業務に取り込んでいけるよう運用を考えたい。

(連絡：082-241-3111 内線 2503)

## PNI、CONUTscore を用いた栄養不良患者抽出の検査体制の構築

◎木村 和幸<sup>1)</sup>、青木 良太<sup>1)</sup>、木下 敬一郎<sup>1)</sup>、山代 豊<sup>1)</sup>  
鳥取赤十字病院<sup>1)</sup>

[目的]NST(Nutrition Support Team)における栄養不良患者の抽出方法として、検査データを用いた栄養評価の指標であるPNI(Prognostic Nutritional Index)、CONUT(Controlling Nutritional Status)scoreを用いた方法があげられる。当院検査部では2018年7月より、これらの指標のパラメータ項目である、アルブミン、総コレステロール、総リンパ球数の検査依頼があれば自動計算を行い、結果画面に表示されるプログラムを構築し、運用している。同時に有用性の啓発活動も継続的に行っている。これまでの運用状況と問題点などについて報告する。

[方法]PNI、CONUTscore表示開始後の2018年7月から2021年12月までの入院時検査における表示率とパラメータ項目の検査依頼数を調査した。

[結果]入院時検査におけるPNI/CONUTscoreの表示率は、2018年(7月~12月)：15%/6%、2019年：22%/9%、2020年：28%/12%、2021年：32%/14%と年々増加が認められた。パラメータ項目の検査依頼数(アルブミン/総コレステロール/総リンパ球数)は、2018年(7月~12月)：33096件

/30336件/17627件、2019年：36322件/30402件/22261件、2020年：39294件/29672件/24624件、2021年：41864件/29871件/25507件と総コレステロールの検査依頼数の変化は認められなかったが、アルブミン、総リンパ球数の検査依頼数は年々増加が認められた。

[考察]PNI、CONUTscoreを簡易に表示できる検査体制の構築、そして啓発活動を行うことで、その有用性が周知され、入院時検査における表示率が増加したと考えられる。また、パラメータ項目において、最も依頼数が少なかった総リンパ球数の検査依頼数の増加が、表示率の増加につながったと考えられる。問題点として、時間外の検査項目にパラメータ項目がないことがあげられた。今後は、時間外の検査項目にパラメータ項目を加えることを検討している。引き続き、啓発活動にも努めていきたい。

連絡先：0857-24-8111